

出題分析			
試験時間 90分	配点 75点	大問数 4題	
分量 (昨年比較) [減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化]		
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉</p> <p>評論2題が出題された。昨年と比べ、設問数は(一)が1問減り7問、(二)は変わらず9問で合わせて16問。本文の分量は(一)は微増、(二)は5分の1ほど減った。文学部で頻出の脱文挿入をはじめ、内容把握や空欄補充を中心としたオーソドックスな設問形式であった。</p> <p>〈古文〉</p> <p>江戸期の女流歌人の歌集から出題された。本文量は昨年とほぼ同じ。本文中の和歌は9首に増えた(昨年は4首)ものの、文章は読みやすい。設問は、本文内容を大まかにつかめれば充分対応できるものであった。設問数・解答数ともに昨年と同じ。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>幕末から明治時代にかけての漢学者の文章から出題された。本文の分量は昨年と比べて100字以上増えた。設問数と解答数はともに1減。一部に慎重な読解が求められる設問が含まれ、さらに本文が400字を超える長文となったこともあり、受験生の負担は増したと見られる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 富原真弓『シモーヌ・ヴェイユ』	集団の情念は知性の自由を阻害するものであるというシモーヌ・ヴェイユの思想を説明した文章。本文は専門的な内容で少々読みにくさを感じるかもしれないが、設問は全体的に取り組みやすい。ただし問五は判断に迷う。空欄補充2問、内容説明1問、理由説明2問、脱文挿入1問、抜き出し1問の構成。	標準
二	現代文 (評論) 岡野八代『ケアの倫理——フェミニズムの政治思想』	ケア活動について社会的に考察する「ケアの倫理」について、女性が置かれてきた社会状況やフェミニズム思想の展開の中に位置づける必要があると論じた文章。問十四は判断に迷うが、それ以外の設問は概ね取り組みやすい。脱文挿入1問、空欄補充3問、内容説明3問、内容合致1問、漢字の書き取り1問の構成。	標準

設問別講評			
三	古文 (歌集) 宮部万女『相生の言葉』	歌人である筆者が、道中の風情を歌に詠み、古典にある逸話を引きながら、ねぎしの里に住む知人を訪れる文章。空欄補充2問、傍線部解釈1問(枝問2)、文法1問、内容理解2問、文学史1問の構成。	標準
四	漢文 (文章) 蒲生重章『巽亭文鈔』	元の耶律楚材の発言を取り上げつつ、多大で重要な利益を民衆にもたらすよう努めることが政治の常道であることを論じた文章。問二十六は、誰の発言かに着目する。内容説明2問、書き下し1問、該当箇所抜き出し1問、内容合致1問の構成。	標準

### 合格のための学習法

#### 〈現代文〉

抽象的な文章を読みこなす高度な読解力が求められる。日頃から哲学、文学、文化、社会、芸術など多様なジャンルの評論に触れるようにしよう。また、過去問演習を通して、脱文挿入、空欄補充など、文学部で頻出する設問形式にも慣れておこう。

#### 〈古文〉

読解力については、単語・文法の知識だけでなく、和歌修辞や文学史、古典常識についても学習しておきたい。文学部は歌集や歌論、物語など出典が多岐にわたるため、予想問題などを含めて様々な出題内容に慣れ、文脈や人物関係などを正確に捉えられるよう、日頃から読解の演習を積んでおいてほしい。

#### 〈漢文〉

基礎から応用までの句法や語句、修辞表現、語法、漢詩のルールなど、読解のための知識をまんべんなく身につけておく必要がある。単なる知識の暗記に終始せず、実際の漢文の中で様々な表現に触れ、訓点が省略されていても理解できるような確かな読解力を養おう。加えて、長文をはやく正確に読む訓練も積んでおきたい。